

とは言えない。むしろ恵まれない環境で要保護の対象となるべき子どもが多いことがわかる。一方保育施設に対して多くの家庭は何らかの関心をもっている。その障害となつてゐるものは施設の不足と経済的負担、施設の経営方法や父兄の偏見などが挙げられる。現在の保育施設のあり方、社会の人々への啓蒙、反省と努力によりよき児童福祉の進展を念願する。

## 幼稚園教員養成機関の学生の理想とその特色

東京学芸大学

芦田昇

東京都の二つの幼稚園教諭養成機関の学生一七二名と四年制の教員養成大学の学生女子六三名男子九五名について理想（現在代表的なもの）の調査をおこなつた。一のねらいは両者間の視野の広狭をさぐるところにある。が、学制上の差としてみるには大学生が一定水準の成績を入学試験で示しているのに対して養成機関学生はそれほど厳密な試験でふるわれていない点に問題がある。また大学生は専修が分かれてゐるが各学年全科の学生を含まず、特に幼稚園教育科との比較でなく、最終学年の資料が欠けてゐる。予備調査としての意味で結果を示すと次の通りである。

理想は職業、研究と趣味、生活一般の三領域にわかれる。大学生男女間には男子に「思想の独立」をあげる者が一〇名ある（女子無

し）ことを除けばほとんど見るべき差はない。養成機関学生と大学生間では前者は職業領域七〇％生活一般領域二〇％で後者は職業三九％生活四六％で両領域の重味は反対である。その差に量的には意味があるが、質的な面は明らかでない。特に注意すべき点は養成機関学生では大学生にくらべて職業の中でも教育関係がすぐれ（六七％対二七％）、教職に限らず特に直接教育面（経営八％および指導九％）をあげる者が多いことである。

理想の樹立期はいずれも過半数が高校卒業後特に現在校に在学中になつてゐる。中には幼稚園、小学校時代にあると云う者があり、早期樹立の傾向は明らかに養成機関学生（一二％、大学生は四％）に強い。樹立が確立を意味するかどうかは問題であるが、前者は興味

の固執性が強いと云えよう。動機について略言すれば（明確でないものや二重のものが少なくないが）、大学生では共感型が多く養成機関学生では愛惜型、価値認識型が多い。また前者では読書の影響が濃く、後者では対象と直結する傾向が著しい。

## 職業興味テストより見たる 保育母についての研究

——第一報 殊に動態的体質学的考察——

長野県下諏訪町第二保育園

杉村雅子

目的 保育所が人間形成の場として大きく問題とされるようになったのは、児童憲章の制定以来のことである。したがってなお日浅く、その保育にたずさわる保母の姿はまちまちである。そこで私たちは、職業興味と動態的体質との関係から、保母の実態を把握し、今後私たち保母のあり方の反省にしたい。

方法 対象者は長野県諏訪郡、諏訪市、岡谷市の保育所の保母九五名、長野県保育専門学院の一、二年生二四五名 計二四〇名 調査 昭和三年八月におこなう。学生のうち当時の一年生については、昭和三年二月に同一調査をおこない、その変化をみる。

各対象者毎に、職業興味テスト(藤原喜悦著)と、小坂動態的体質評定を配布し、同時に保母には、経験年数、就職年令、及びその動機などを記入してもらう。

① 結果とその考察(職業興味テストについて)

① 保母と学生の興味の一般的傾向は、对人的社会的領域と実業的領域が高く、実業的領域が低くなっている。

② 保母と学生との比較では、保母は对人的社会的領域と実業的領域が高く、学生は自然的領域が高い。

③ 二年生になると一年生に比して、对人的社会的領域と自然的領域が低くなり、研究的領域が高くなる傾向がみられる。

④ 一年生から二年生に学年が進むにつれて保母の得点に近づくかどうか? 自然的領域、実業的領域、機械的領域では保母の値に近づく傾向があり、研究的領域では高く、对人的社会的領域では低くなる

⑤ 学院生徒が卒業して、実際に職業に就いた場合、どのように変わっていくか興味を持って研究を続けている。

⑥ 他の地域(例えば農村と都市)での成績はどうか、また他の職業との比較などの問題も今後の課題として研究してみたい。

# 職業興味テストより見たる 保母についての研究

## 第二報 殊に動態的体質学的考察

長野県立保育専門学院

小 尾 書 子

第二報(殊に動態的体質学的考察)においては第一報と同一人に対し体質調査(小坂動態体質評定)を試みたものである。体質について(SE, WM 体質的特質一例)

S E 体質		W M 体質	
寒さまけ		暑さまけ	
汗かきでない		汗かきである	
適応が遅い		適応が速い	
こり性		こり性でない	
夜型作業(宵はれ朝ねぼう)		朝型作業(早ね早起き)	

SEはSummer Evening, WMはWinter Morning, MはMiddleの各々頭文字を略したものでそれぞれの場合において身体生理機能は順調におこなわれるものである。

結果とその考察

① 体質の一般傾向において諏訪郡の保母は、M体質が四八%、学生はSE体質の四二%にそれぞれ割合を多く示し、体質指数においては保母の平均体質指数は五八、六である。学生は五八、一であ